

高品質な段ボールを 多方面に展開

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



88周年記念行事

業務内容 独立系段ボールメーカー

製紙会社系列の大手段ボールメーカーが高品質な段ボールを占める業界にあって、「大阪紙器工業」は昭和3年に創業以来、独立系段ボールメーカーとしてさまざまな包装ニーズに対応し、顧客の信頼を得てきた。

最新設備も導入し、品質の高い製品をリーズナブルな価格で提供できるようにしている。平成24年には小ロット、短納期、多頻度配送ニーズに応えるため、生産管理システムの更新を断行した。従来システムと比べて生産性が飛躍的に向上し効率的な生産体制を構築することができた。

強み 専門知識を持った営業担当者

営業活動の時点で開発までを想定したアプローチを行い、顧客満足度を高めている。営業担当者は全員が包装士の資格を持ち、CADを活用したサンプル作成にも手馴れている。顧客との商談時には単に「外装用段ボールケース」として使用する目的だけではなく、デザインを通じての宣伝効果や識別性、サイズを調整する事によって倉庫での保管や運送時のコスト削減まで幅広く提案できる。

さらに、採寸・設計・デザイン・見積・納期管理など全ての流れを把握していることで、新製品を立ち上げるスピードには定評がある。

充実設備 一歩先行く段ボール

製品を保護・保管することが主目的の段ボールケースは見えない部分の品質が大切だ。同社は一級品の原紙しか使用しない。



段ボールシートの生産設備



段ボールケースの生産設備

今後の展望 「集める」から「集まる」へ

糊やインキなど細部にまでこだわっている。設備も最新鋭で、コルゲートから製箱機まで三菱重工製で統一し、機械メーカーと二人三脚で品質向上に取組んでいる。あくまで品質にこだわり、決してレベルは落とさない。安心を当たり前前に提供する事を使命としている。

一級品の素材を一級品の機械で加工し、一級品の提案を営業が行う、そんな「一歩先を行く段ボール」を目指す。

従業員の技能向上だけでなく、人間力向上も図っていく。月に一度開催している著名人の考えを学び、感想を発表し合う勉強会は開始から約2年が経過し、読む力・書く力を高めつつ思いやりの心を育んできた。地域の行事にはスポンサーとして積極的に参加し、社会に貢献する喜びと責任についても学んでいる。近隣の学校や他業種とのコラボレーションを実施し、発想力の向上と社会に役立つ製品開発にも注力し始めた。

人を「集める」から、人が「集まる」企業を合言葉に、創業100周年に向けて成長し続けていく。

当社の歴史



昭和3年、「健・和・誠」を社是に大阪市西成区で「得田紙器工業所」として創業しました。最初はランプを包む片面段ボールの製造でした。同24年に「大阪紙器工業」に社名を変更し、同31年に大阪府高槻市に新工場を建設しました。そして平成27年、本社を高槻市の工場に移しました。

代表取締役 **平田 顕**さん

<http://www.osakashikogyo.com/>

ISO 9001
ISO 14001

主な事業内容

段ボールシート・ケースの製造販売、関連包装資材の販売

主な取引先(納入先)

食品・半導体・家電・製薬・化粧品・機械・繊維・文具・建築などのメーカーや通信販売会社、神社、学校など

- 住所 〒569-1142 高槻市 宮田町1-3-2
- TEL 072-695-1111
- FAX 072-693-1117
- 創業 昭和3年10月
- 設立 昭和24年3月
- 資本金 1,500万円
- 従業員 43名